

平成20年度・浮き城のまち景観賞
審査対象作品一覧

資料2

作品番号	作品名	応募年次	所在	応募者による推薦理由	用途
①	テクノホルティ 園芸専門学校 	20	埼玉4758	「テクノホルティ園芸専門学校」の煙突が、シンボリックな存在感である。学校の校舎と花壇の調和が取れている。	学 校
②	金澤製菓店 	20	埼玉5288	店舗として歴史的な重みがあり、前玉神社に隣接して景観とのバランスが調和している。	店 舗
③	行田天然温泉 「古代蓮物語」 	20	向町19-26	行田市のシンボリックな公園である「古代蓮の里」に類似する名称塔やその建物の外観により、大衆の手軽な温泉として利用できる。	天然温泉の 施 設
④	蔵一山 	19	桜町2-29-3	酒蔵を改造し、飲食店としてコンバージョンした建物である。敷地を囲う黒色の板塀や幟旗が酒蔵の外観にマッチし、落ち着いた雰囲気を出していると共に、藁や緑をふんだんに取り入れたことで市街地において自然的な要素が味付けされている。交通量の多い県道沿いにありながら、行田らしい歴史を感じさせる景観を創出している。	飲 食 店
⑤	イタリア料理 ORTON 	19	長野1813-1	洋食を提供する店舗ながら、その外観には竹や板塀、暖簾など和の素材をふんだんに取り入れており、思わず立ち寄ってみたくなる独特の雰囲気を醸し出している。	飲 食 店
⑥	高窓のある農家 	19	大字南河原1211	農村地帯に佇む、屋敷林で覆われた広い敷地の邸宅である。この辺りとしては珍しく高窓を持っており、養蚕農家である（或いはあった）ことが伺える希少な建築物と推測される。周辺一帯は田畑と人家が混在しており、この時期、道端に咲くコスモスと相まって、自然の温かみを包容したのんびりとした雰囲気を漂わせている。	一 般 住 宅
⑦	国道沿いに佇む豪邸 	19	城西4-7-14	国道125号を走行していると、奥まった場所にありながら目を引かれる、その存在感に圧倒される建物である。その威風堂々たる外観は、飲食系や娯楽系の店舗が立地するこの辺り一帯において、行田の歴史を静かに見守っているかのような厳かな空気に包まれている。	一 般 住 宅
⑧	武蔵野銀行行田支店 	18	行田4-5	明治時代の建築物のように歴史を感じさせる。	銀 行
⑨	忠次郎蔵 「旧小川忠次郎商店」 	18	忍1-4-6	蓮華寺通りに面し、行田を代表する産業であった足袋の原料を商っていた。解体予定だった建物を改修し、店舗などとして再活用している。「足袋の町・行田」らしさを象徴し、蓮華寺通りの景観の創出にも寄与している。また、行田の足袋産業最盛期を象徴する建物として、国の登録有形文化財にもなっている。	飲 食 店 兼 務 所